

第2学年 社会科学習指導案

〔歴史的分野〕

単元名 開国と近代日本の歩み―第3節 明治維新

場所 : 2年B組教室

学級 : 大垣市立興文中学校

2年B組 (35名)

授業者: 三輪 大輔

1. 指導の立場

(1) 単元について

本単元は開国後の明治時代を取り扱う内容である。江戸時代、日本は長く後世で言う「鎖国」状態にあったが、黒船の来航を機に開国し、諸外国と通商条約を結ぶに至った。当時の大老の判断は、外国の力と国益を考えた上での不平等条約締結であったが、その後の明治に至る過程は幕府という古い権威を捨て、いかに諸外国と肩を並べるかが喫緊の課題であった。そのようなめまぐるしく社会が変化する激動の明治において、新しい政府は明治の三大改革に着手する。学制によって教育を施されたことにより、その後多くの知識人を生み出し、日本を支える礎となった。鍛えた軍隊は朝鮮を武力で開国させ、その後中国やロシアとの戦争を勝利に導き、様々な利権獲得の原動力となった。また、殖産興業や軍備拡張など、地租は明治政府発足後間もない日本の国家予算の大部分を占め、政策の支えとなった。江戸時代に結ばれた不平等条約については内閣制度づくりから憲法の制定など立憲国家としての歩みや、産業の育成など、近代国家としての歩みと、外務大臣をはじめ、外交努力によって改正されてきた。

自由民権運動から民撰議員による議会政治実現や、内閣制度を整え、憲法を制定することで憲法に基づいて政治が行われる仕組み作りなど「政治的変革」や、殖産興業によって資本主義化し、国を富ませる「経済的変革」や、三大改革によって学制・兵制・税制を整えた「社会的変革」は後に「明治維新」と呼ばれた。「不平等条約改正」など、明治維新には様々な目的があると考えられる。そこで本時はその目的の1つ、日本が「近代国家」(欧米と肩を並べる)となる上で、明治維新のどの政策が最も重要な要素となり得るのかを問う内容となっている。ここでの議論はあくまで「近代国家となる」に重きを置き、政治的・経済的・社会的に重要な明治維新の要素が生徒を葛藤させると考えられる。

近代国家へと成長するきっかけを明治維新のどの政策のどんな側面に重きを置き議論するのが本時最も重要となる。

(2) 生徒の実態

資料から事実を読み取る事に長け、仲間の考えをもとに自分の考えと比較したり、関連付けて話したりすることができる生徒が多い。一方で答えの定まっていない問いに関しては苦手意識が強い。自分の考えだけではなく仲間の話にじっくり耳を傾け、(様々な視点から)時には立場を変えて社会的事象について考えさせたい。

2. 研究との関わり

(1) 社会の形成に参画する力を育てるための指導内容の明確化

① 単元構造図を用いた単元指導計画の作成

本単元は開国と日本の歩みの第三節「明治維新」である。欧米と肩を並べる「近代国家」が明治維新の目的だとするならば、明治のどんな改革を通して近代国家になっていったのが単元全体を通して考える課題となる。単元構造図では、第1時に、制度的に進み、アジアに侵略してくる欧米に追いつかなければならない日本の現状を既習から捉え、単元を貫く課題「日本が欧米と肩を並べるために、日本が明治維新として行った政策の中で最も重要なものはどれだろうか」を設定する。その後、第2時～第7時まで三大改革や殖産興業、外交努力や立憲制国家の仕組みづくりなど、政治・経済・社会の変革である明治維新の内容理解をすすめる。第8時に整理し、今までの既習を使い、第9時で単元を貫く課題解決に取り組みせる。

(2) 社会の形成に参画する力を育てるための指導方法の明確化

② 価値に関する認識を形成する授業モデルの定着・発展

歴史的分野における価値に関する認識を形成する授業は、定まった答えの無い今日的課題に対して何か

しらの判断をするものではなく、歴史という変えようのない事実認識の上で成り立つものである。従って、本実践も第2時から第7時までの明治維新の内容という事実認識をもとに、欧米に肩を並べるまでになる日本にとって最も重要な政策を判断させる。その過程で、様々な政策という選択肢がある中で、生徒がどんな見方や考え方で重要と判断したのか。また、仲間の見方や考え方に触れ、相互理解の上で判断させるといった価値に関する認識を形成する授業モデルの学習過程を取り入れた授業を展開する。

③それぞれの授業モデルにおける認識を深める場の設定

本時において生徒は多くの仲間の判断の結果を知ることとなる。明治維新という政治・経済・社会の変革を促した政策のどれに重要性を見いだしたとしても、その判断基準が明確になっているかが大切である。例えば、殖産興業として官営模範工場をつくり、優秀な労働者を育て、その技術を各地に広めた事実を取り上げるとして、もちろん最も重要なのは、その事実から考えた改革の重要性の部分なのだが、生徒が互いに一方的な判断を語るだけでは認識が深まるとは考えられない。

そこで、本時のまとめでは、仲間の考え方を引用して自分の考えを再構築する場面を設ける。自分の判断が正しいかどうかではなく、仲間の判断を踏まえて自分の判断を見直すことで、さらに認識が深まると考える。

3. 単元構造図(全8時間)

【単元のねらい】

明治維新と呼ばれる様々な改革を調べることを通して、明治政府が、日本を欧米に対抗できるような近代国家を目指したことが分かる。

【単元はじめの生徒の意識】

江戸幕府が滅び、新政府による政治がスタートした。しかし、幕府が結んだ不平等条約は残され、長く続いた鎖国政策により欧米から遅れている日本の近代化は急務であった。日本が近代国家としてこれからどのように成長していくのだろうか。

【①新政府の成立】

課：明治政府が行う諸改革の目的は何だろうか

<ねらい> 明治政府が打ち出した改革について知ることを通して、日本が近代国家として歩み始めたことを理解し、今後の学習の見通しをもつことができる。(主体的)

<生徒の意識> 江戸幕府は滅んだものの、不平等条約は残され、長い鎖国で欧米よりも日本は遅れている。近代化が急務であったが具体的に何を行ったのだろうか。

【単元を貫く課題】

要なものとはどれだろうか

欧米と肩を並べるために、日本が明治維新として行った政策の中で最も重

事実に関する認識の獲得

【②明治の三大改革】

三大改革

課：明治の三大改革とはどんな内容なのか

<ねらい> 三大改革の内容を調べることを通して、政府が目指した「近代国家」に向けて歩み出したことを理解する。(知・技)(主体的)

<生徒の意識> 近代国家の礎として欧米のような教育制度、兵制、税制は重要で、三大改革によって整えられた。

外交努力

【④近代的な国際関係⑤国境と領土の確定】

課：欧米やアジア諸国とどんな外交関係を結んだのか

課：国境や領土はどんな過程で確定していったのか

<ねらい> 条約による近代的な外交関係づくりにより、南下するロシアの脅威に対し、国境を明確にし、朝鮮は武力で開国させたことがわかる。(知・技)

<生徒の意識> 条約改正交渉は失敗したが、外交により近隣諸国や欧米と関係をつくっていった。また、武力で朝鮮を開国させるほど軍の力もつけている。

立憲制国家

【③富国強兵と文明開化】

殖産興業

課：産業を興すことが国益にどうつながるのだろうか

<ねらい> 政府がお金を出してまで産業を発展させることが近代化を促し、欧米に負けない国力に繋がることを理解する。(知・技)

<生徒の意識> 欧米に対抗するためには経済力が必要だった。産業を興すとは近代国家の基礎となった。

【⑥自由民権運動の高まり⑦立憲制国家の成立】

課：民権派はどんな社会の実現を目指したのか

課：政府はなぜ憲法をつくったのか

<ねらい> 内閣制度や憲法の制定、国会開設の流れの中で、民権派や政府の立場から政治の在り方を考えることを通して、世界と肩を並べる立憲制国家へと日本が成長していったことが分かる。(思・判・表)

<生徒の意識> 専制政治と政治腐敗が民権派の力となり、ついに国会が開かれた。政府は憲法制定による立憲国家の仕組みを整備し、民権派の革新的な動きを封じ、欧米のような政治の仕組みを整えた。

【⑧単元のまとめ】ウェビングマップでまとめる

近代国家への成長→「三大改革」「殖産興業」「外交努力」「立憲制国家の成立」の4視点から迫る

価値に関する認識を形成

【⑨明治維新の結果】

課：欧米と肩を並べるために、日本が明治維新として行った政策の中で最も重要なものはどれだろうか

<ねらい> 欧米と肩を並べるために、明治維新の中で最も重要な政策は何かを追究することを通して、仲間の意見を踏まえたり、これまで学習してきたこととの関連を明確にしたりしながら考察し、判断基準を明らかにして表現することができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識> 明治時代になり、三大改革や産業振興、外交努力や立憲国家の仕組みを整えたことなど様々な改革を通して、江戸時代から大きく発展し、日本は近代国家として欧米と肩を並べるまでに成長した。

【単元出口の生徒の意識】

江戸時代末期に欧米との差を感じた日本は、不平等条約改正はもちろん、アジアに進出する欧米の脅威もあって、近代化によって欧米と肩を並べるまでになることが急務だった。特に憲法を制定し、憲法に基づいた政治を行う立憲制国家の仕組みは、それまでの日本の政治体制とは大きく異なり、近代国家として日本の力を認めさせる大きな変革だと考えられる。また、学制や兵制、税制を整えた三大改革や殖産興業、条約制定などの外交努力など、後に明治維新と呼ばれる政治、経済、社会の変革によって日本は欧米と肩を並べるまでに成長した。

4 本時のねらい

欧米と肩を並べるために行った明治維新の政策の中で、最も重要ものは何かを追究することを通して、仲間の意見を踏まえたり、これまで学習してきたこととの関連を明確にしたりしながら考察し、判断基準を明らかにして表現することができる。

5 本時の展開

過程	学 習 活 動	研究内容について
導入	<p>1. 明治時代を俯瞰し、課題について追究する。</p>	
展開前段	<p>欧米と肩を並べるために、日本が明治維新として行った政策の中で最も重要なものはどれだろう</p> <p>2. 全体で交流する。</p> <p>三大改革が最も重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学制で人を育て、兵制で国を守り、税制が国を支える。国の基本的な仕組みを整えるという意味で重要。 ・教育で育った優秀な人物が政治や産業などあらゆる方面で活躍している。朝鮮を結果的に武力で開国させていることから欧米に日本の力を示した。 <p>殖産興業が最も重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官営模範工場を造り、生糸を増産することは日本の技術力向上と国が富む、儲かることに繋がる。 ・交通や通信の発達は産業の発達に繋がり、国全体の力（国力）が高まることになると同時に欧米と対等に付き合う力になる。 <p>外交努力が最も重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米式の条約の締結による外国との関係づくりは日本の立場をはっきりさせる上でも重要。 ・アジア諸国とは日本が優位な条約を結び、アジアで中心的な国になれば、欧米の日本に対する見方も変わってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米と肩を並べることが明治維新の一つの目的として、その目的を達する政策としての重要性を比較させる。（前時） ・ 明治維新のどの内容が欧米と肩を並べることに繋がりやすいと考えるのか、様々な政策を比較・関連付けながら、判断の理由を明らかにするように指導する。 【研究内容1】② ・ それぞれの改革の内容・目的を比較しながら、再構築できるようにするために、それぞれの立場の考えの内容について整理させる。 ・ 課題に対する考えを整理するために「日本が欧米と肩を並べた」と判断する欧米側の立場で認識を深めさせる。 ・ 相互理解を踏まえた意思決定を促すため、自分になかった考え方や、取り入れたい考え方は何かを視点にして学習のまとめを書き、全体で交流する場を位置付ける。 【研究内容2】②
展開後段	<p>3. 自分になかった考え方や、取り入れたい考え方を踏まえ、自分の考えを再構築する。</p> <p>憲法を制定し、憲法に基づいた政治を行う立憲制国家の仕組みは、それまでの日本の政治体制とは大きく異なり、近代国家として日本の力を認めさせる大きな変革だと考えられる。一方で学制や兵制、税制を整えた三大改革や殖産興業、条約制定などの外交努力も仲間の考えからその重要性は理解できる。この明治維新と呼ばれる改革は欧米と肩を並べる上でとても重要であった。</p>	<p>【評価規準【思考・判断・表現】</p> <p>欧米と日本が肩を並べるために行った政策の重要性について判断基準を明確にし、仲間の意見を踏まえて表現している。</p> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2, 3の場面での発言や記述内容
終末		